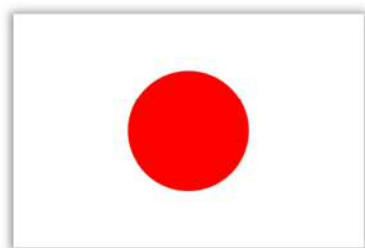


平成27年度  
苫小牧市こども国際交流事業

# 中学生フィリピン派遣団



## 報告書



平成27年7月30日(木)～8月3日(月)

フィリピン共和国 マニラ

苫小牧市



# 目 次

派遣団名簿	1
事業概要	2
日程表	3
「こども国際交流事業を終えて」 団長 苫小牧市立緑陵中学校 校長 平沼 秀之	4
「中学生フィリピン派遣団に参加して」 リーダー 苫小牧市立啓明中学校 土谷 奈々	5
旅行記	6
体験記	11
研究報告	15
旅の思い出（写真）	17



セント・フランシス聾学校にて

# 中学生フィリピン派遣団名簿

## 引率者

	所属		氏名
団長	緑陵中学校	校長	平沼 秀之
アドバイザー	緑陵中学校	教諭	上條 直樹
事務局員	苫小牧市まちづくり推進課	主事	川島 徹

## 団員

	学 校	学年	氏名
リーダー	啓明中学校	3年	土谷 奈々
	凌雲中学校	3年	國坂 萌々香
	沼ノ端中学校	3年	小林 舞凜
	立命館慶祥中学校	3年	田中 詩帆
	緑陵中学校	3年	山田 采果
	登別明日中等教育学校	2年	菅野 しおり
	沼ノ端中学校	2年	齊藤 有里杏
	青翔中学校	1年	木戸 花音
	青翔中学校	1年	藤村 一馬
	啓北中学校	1年	吉田 海慈



7月28日出発式

# 事業概要

## ●目的

市内の学生を海外に派遣し、子供たちとの交流や文化や習慣に直接触れることで、国際的な視野を持つ人材の育成や友好関係を構築する。

## ●訪問国（都市）

フィリピン共和国（マニラ）

## ●協力

独立行政法人国際協力機構（JICA）

## ●事業日程

月 日	曜日	時 間	内 容	備 考
5月19日	火	17:30 ~20:00	選考面接 (作文・面接による選考)	
6月 2日	火	18:00 ~19:30	結団式・第1回事前研修 (説明会)	
6月 9日	火	18:00 ~20:00	第2回事前研修 (フィリピン講座)	フィリピン人 講師
6月16日	火	18:00 ~20:00	第3回事前研修 (発展途上国の研修・リーダー決定)	ドキュメンタ リー映画鑑賞
6月23日	火	18:00 ~20:00	第4回事前研修 (交流先の説明・グループ分け)	
6月30日	火	18:00 ~20:00	第5回事前研修 (フィリピン講座)	フィリピン人 講師
7月 7日	火	17:00 ~20:00	第6回事前研修 (現地での交流内容を決定・名刺作り)	
7月14日	火	17:00 ~20:00	第7回事前研修 (現地での交流の練習)	
7月21日	火	17:00 ~20:00	第8回事前研修 (現地での交流の練習)	
7月28日	火	17:00 ~20:00	出発式・第9回事前研修 (市長表敬・現地での交流の練習)	
7月30日 ~3日			フィリピン訪問	
8月 7日	火	10:00 ~18:00	帰国報告会準備①	①②のほか、 期間中グルー プごとに数回 準備
8月25日	火	18:00 ~20:00	帰国報告会準備②	
9月 1日	火	18:00 ~20:00	帰国報告会	

# 日 程 表

4泊5日【宿泊：ベルジャヤ マカティ ホテル】

	月 日	曜 日	時 間	場 所	内 容	移 動	食 事
1	7月30日	木	12:00	市役所	市役所発 12:30 新千歳空港着 13:00	専用バス	昼：各自 夜：機内食
			14:00	新千歳空港	新千歳空港発 14:05 成田空港着 15:45	航空機	
			17:20	成田空港	成田空港発 17:20 マニラ空港着 20:55	航空機	
			22:30	マニラ	ホテル到着	専用バス	
2	7月31日	金	8:00	ホテル	マニラ市へ	専用バス	朝：ホテル 昼：多国籍 バイキング 夜：しゃぶしゃぶ
			9:30	ケソン	Araullo High School(公立中学校)		
			14:00	マニラ	セント・フランシス聾学校		
			16:00	マカティ	JICA フィリピン事務所訪問・研修		
3	8月1日	土	8:00	ホテル	来苦経験のある若者と合流	専用バス	朝：ホテル 昼：チキン料理 夜：ハンバーガー
			午前	マカティ	来苦経験のある若者との交流 ・ナショナルユースコミッション(NYC)		
			午後	マニラ	大学生とグループで市内を散策 ・モール・オブ・アジア		
4	8月2日	日	午前	ラスピニャス タガイタイ	ラスピニャス・タガイタイ観光 ・ラスピニャス教会(ハンブーオルガン) ・ジプニー工場 ・タール湖(ヒープルス・パーク・イン・ザ・スカイ)	専用バス ジプニー	朝：ホテル 昼：フィリピン料理 夜：スペイン料理
			午後	マニラ	マニラ(イントラムロス)観光 ・リサールパーク ・サン・アグスティン教会 ・カーサマニラ ・サンチアゴ要塞 スモーキーマウンテン視察		
5	8月3日	月	7:00	ホテル	マニラ空港へ	専用バス	朝：ホテル 昼：機内食 夜：自宅
			7:00	マニラ空港	マニラ空港発 9:30 成田空港着 15:00	航空機	
			18:50	成田空港	成田空港発 18:55 新千歳空港着 21:00	航空機	
			22:00	市役所	解散	専用バス	



## こども国際交流事業を終えて

私たち派遣団は、7月30日夜9時、ニイノ・アキノ国際空港に到着しました。苫小牧市から9時間、期待と緊張と疲労の中、5日間の国際交流事業がスタートしました。

ニイノ・アキノ国際空港は、現在のフィリピン大統領のアキノ3世の父親に当たる、故ニイノ・アキノ上院議員を記念して改称された空港です。私たちが宿泊するホテルは、この空港から5kmほど離れたマカティ地区にありました。マカティ地区には、シティバンク、インテル、マイクロソフト等の企業が多く集まり、高層ビル群が立ち並んでいます。日本で言えば六本木ヒルズのように、高級住宅と高級ショッピングモールの複合施設があり、住宅街を覗くと大抵の家にプールが付いています。この地区に住むという事は「金持ち・勝ち組」を意味します。

フィリピンを代表する富裕層が住むマカティ地区と正反対な地区に、スモーキー・マウンテンと呼ばれるスラム街があります。富裕層の住む地域を一步でると、町中が薄汚れた感じがし、道路を一つ曲がるとスラム街があったりしました。スモーキー・マウンテンは、明日の食べ物さえ困っている貧しい人たちがゴミ捨て場に集まるようになり、ゴミの中から使えそうな物を見つけて売りさばき、生活の糧（かて）にするようになりました。そういう人たちがばかりが住んでいる町で、世界最悪の住環境と言われています。

そのようなスラム街の子どもたちは、家計を助けるために、学校にも行けずに働いたり、住む所がなく道路で物乞いをしながら生活している少年たち（ストリートチルドレン）もたくさんいました。こうした問題を解決していくために、フィリピン国内では多くの子ども支援機関の人が努力していますし、日本もJICA（国際協力機構）などを通して援助の手をさしのべていることを知りました。

私たちは、バスの車窓からスラム街の様子を見ましたが、子どもたちは、穴のあいた服を着て裸足で走り回ったり、バスケットボールに熱中したりしていました。しかし、みんな一様に明るく楽しそうで、手を振りながら人なつこい笑顔を送っていました。そうした子どもたちは、貧困家庭に育ちながらも、小さな部屋で多くの家族が仲良く協力しあって暮らしているそうです。恵まれた環境で育っている日本の子どもたちにとって、貧富の差の激しさと家族の幸福の在り方や国際援助のしくみ等について考える機会になったと思います。

今回の派遣では、フィリピンの若者たちや聾学校、公立中学校の児童生徒との交流活動を行いました。フィリピンの公立中学校には日本のような恵まれた施設はありませんし、その上子供の数が多すぎるので、午前と午後と夜間で子供を入れ替えて授業を行っていました。子供たちの誰にたずねても、「学校が好き」「先生が好き」「友達が好き」と答えるそうです。訪問した学校の子どもたちは、好奇心あふれるクリクリした瞳で見つめ、目が合うと必ずだれもがにっこりとほほえんでくれました。人なつっこく、キラキラしたすてきな笑顔が印象的でした。

教科書は日本のように無料で配布されるわけではありません。しかし、親はお金を工面して、子供自身に教科書を買わせるといいます。子供たちは教科書にセロファンでカバーをかけて宝物のように大切にします。恵まれない環境でも一生懸命に勉強するし、家計を助けるために働き、よくお手伝いをします。みんな助け合って生活することが常識であり、いくら貧しくても、弱い人、困っている人を見過ごしにはしないそうです。この優しさはフィリピン国民に共通した性格であり、大きな特徴になっているそうです。

日本は世界有数の経済大国です。フィリピンにないものがたくさんあり、人々は誰もが文化的な暮らしをしています。お金を出せばいろいろなものが手にはいるし、おいしいものが食べられます。しかし、私たちは、本当に「豊か」と言えるのかと感じました。フィリピンは金銭面で、また物質面では豊かな国とはいえません。しかし、誰もが親切で、家族思いで、お互いに助け合いながら、前向きに生活しています。貧しくとも、人々の顔から笑顔が絶えることはなく、明るい明日を夢見て生活しているようでした。フィリピンという国は、日本人が忘れてしまったものを今でも残している国だと思いました。

今回の派遣は、子どもたちにとって大変貴重な体験となりました。この体験が将来にわたってこどもたちの心に残り、心豊かな人間に成長してくれることを期待しています。終わりになりますが、この事業の実施にあたり、多大なご尽力・ご協力をいただきました関係者のみなさまには、深く敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

平成27年8月

団長  
苫小牧市立緑陵中学校  
校長 平沼 秀之

私達10人は9回の事前研修をおえて7月30日にいよいよフィリピンへ向けて出発しました。

飛行機を乗り継いでやっとフィリピンに到着して、空港の外に出たら想像以上に暑く、皆テンションが上がってしまいました。また、道路は車でうめつくされ、さらにクラクションの音がいたる所でひびき渡っていました。日本では、ありえない光景だったのでとても驚きました。ホテルに着いて、次の日の準備をして、初日は終了しました。

2日目は、まずアラウロ高校に行きました。学校に到着すると、たくさんの学生がこちらを見て盛り上がっていたので、とても有名人になった気分でした。ココナッツのカラを使ったフィリピンのダンスを披露してくれて、とても感動しました。みなさん動きがきれいにそろっていて、私達のためにたくさん練習してくれたんだと思い、うれしい気持ちが深まりました。実際の授業にも参加してフィリピンの学校の様子を体験することもできました。教室の様子などは、日本と大きな違いがなかったのですが、授業が始まると全てが英語だったので、私は、ほとんど内容を理解することができませんでした。他の団員も、ぽかんとしていたので多分日本との違いを実感していたのだと思います。

その後、私たちは、ろう学校に行き「書道」「トントンずもう」「ジェスチャーゲーム」の3チームに分かれて、幼稚園児から小学生の学生に教えてあげました。みなさん楽しそうにやっていて、私たちもうれしかったです。

4日目に「スモークマウンテン」を訪問したとき、私は心が痛くなりました。日本とは全然違い「ほんとうにこんな所で生活しているの?」と思いました。日本は、どれだけ幸せなのだろう、私達はすごく恵まれた中で生活していると感じました。それでも私たちがバスの中から見ていると、小さな子供たちが笑顔で手を振ってくれました。私も笑顔でふり返しましたが、自分たちが大変なのに手を振ってくれて、うれしい気持ちでいっぱいになりました。フィリピンではたくさんの事を学ぶことができました。今は情報化が進んでいて、その国に行かなくても他の国の情報がインターネットですぐにわかります。それでも実際に行ってみないとわからない事があり、私達はフィリピンで起こっている過酷な現状を見てきました。その事を多くの人々に伝えて、フィリピンの人々の生活が少しでも変われば良いと思います。

また、今回の訪問で多くのフィリピンの人たちと出会い、「笑顔」や「コミュニケーション」がとても大切だと言うことを学びました。

私は今回この事業に参加することができたことを、とても誇りに思います。そして、今回私たちを支えてくれた保護者の皆様、先生方ほんとうにありがとうございました。訪問団のメンバーも、私を助けてくれてありがとうございました。

この事業に参加して、フィリピンで学んできたことを将来に生かしていきたいと思っています。



## 第1日目 7月30日(木)

國坂 萌々香

いよいよ今日は、日本を出発してフィリピンへ行く日です。市役所に集合して、それぞれキャリーケースにフィリピンの方達に渡すノートやビーズなどのお土産をつめこみました。



新千歳空港まではバスで行きました。みんなでお菓子をどのくらい持ってきたかなどのお話をしていると、あっという間に空港に着きました。空港に着くと少し自由時間があったので、お店をうろちよりました。お店では、買い忘れていたお菓子やお昼に食べるサンドウィッチなどを買いました。でも、飛行機に乗るまでに結構時間があったので、空港の中で全部食べてしまいました。飛行機の中で席を探しているとCAさんが丁寧に教えてくれました。席に座ってからは、音楽や映画を観たり聞いたりしてゆっくり過ごしました。

成田空港に着いてから少しすると、バスケットボールの有名な選手達が団員の何人かに名刺をプレゼントしていました。その後、団員が「写真を一緒に撮って给我们ませんか」とお願いすると笑顔でOKしてくれました。とても優しくてかっこ良かったです。



それから飛行機までは、少しの距離でしたがバスに乗って移動しました。席に座り少するとCAさんが私達の所に来てくれて「フィリピンに行かれる皆さん、暑い国に行かれるので気温差などで体調を崩されませんよう頑張ってきてください。」と書かれたポストカードを団員にくれました。とても嬉しかったです。

飛行機が離陸してしばらくすると、夕食の時間になりました。機内食は、和食のブリの煮物と洋食のカレーライスを選ぶことが出来ました。私は、オススメのブリの煮物を選んで食べましたが、結構美味しかったです。



飛行機がフィリピンに着陸し、デッキを歩いていると温かい風が吹いていて空港の外は、もっと暑いんだなと思うと、少し気分が重くなりました。さらに、長時間移動して、やっとマニラ空港に到着したのに、入国審査にすごく時間がかかり、疲れました。

空港から出てマニラの市街地をバスで走っていると、フィリピンの方達が私達に手を振ってくれました。みなさんフレンドリーで安心しました。



## 第2日目 7月31日(金)

齊藤 有里杏

今日は皆が事前研修でたくさん練習してきたことを披露する日です。

まずはアラウロ高校に行きました。バスが敷地に入ると、生徒たちが私に手をふってくれました。バスから降りて、学長に会いに行き、写真を撮り、マグネットをもらいました。次に一部の生徒が、歌とダンスを披露してくれました。歌はフィリピンの国家と日本の国家でした。君が代は、私たちより上手なのでは?と思うほどでした。ダンスは体にココナツの殻をいくつか付けて、自分たちの手に持っている殻を叩きながら踊るというものでした。とてもいい音がして、見ていておもしろかったです。その後に校内見学をしました。また、あるクラスで英語の授業に参加しました。内容は正直わかりませんでした。ですが、その後にクラスで何人かのグループになり、お互い自己紹介をしたり、名刺を交換しました。一緒に写真を撮る時には、皆いきなり横にくるので顔がぶれておもしろい写真がとれました。



その後、セントフランシス聾学校に行きました。最初に生徒たちが踊りを披露してくれましたが、途中で私たちも引きこまれて、見よう見まねで踊りました。びっくりしたのは次の曲が「ようかい体操第一」だったことです。4番まで踊りました。そして、さらにもう1曲踊り、ヘトヘトになってしまいました。

次に団員の紹介をしました。生徒が大きなりアクションをしてくれたので、とても話しやすかったです。そして私たちは、トントンずもう、

ジェスチャーゲーム、書道を各教室で教えました。少しの緊張と英語で伝えることの難しさにとぎまぎしてしまいましたが、添乗員さんが手伝ってくれて、何とか伝えられました。しかも生徒がワンモアと言ってくれたので書道セットをあげました。他の遊びも楽しんでくれて良かったです。



最後に私たちがそれぞれの学校で集めたノートを渡しました。とても喜んでくれてうれしくなりました。聾学校の生徒は耳が聞こえず、生活が大変そうなのに、そんなそぶりを見せずにニコニコ笑っていて、どんな小さい幸せも喜べるすごい人達だと思いました。

次に JICA の事務所に行って青年海外協力隊のことや日本とフィリピンの関係について話を聞きました。発展途上国であるフィリピンと先進国の日本とでは、生活のしやすさが全然違うなど改めて思いました。

JICA の方のお話の中で、とても心に響いた言葉がありました。それは「見てしまった責任をとらなければならない」です。フィリピンのありえない光景を目にした私たちは責任をとり、あの現状を変えたいです。だから私はこの場所を借りて、皆さんにもフィリピンの現状を知ってほしいです。学校にも行けず、今日生きていられるかもわからないような人々がいる現状を私は、身をもって感じました。

私は、自分の生活を見直す事ができる、とても貴重な時間を過ごせたと思っています。とても充実した1日でした。



### 第3日目 8月1日(土)

小林 舞凜

8月1日。この日はとても蒸し暑く、天気も快晴でした。さすがフィリピン！今日はフィリピンの若者と交流します。

朝、ホテルのロビーに行くときたくさんの人がいました。とても笑顔がすてきで、私はこの時「この人達と一日一緒に過ごすんだ～楽しみ」と思ったのを覚えています。しかし、この交流は楽しいばかりではありませんでした。

私がペアになったアリエルは、とてもおもしろく歌がとても上手で私と気が合う方でした。最初は、ナショナル・ユース・コミッションに行き日本大使館の方のお話を聞いたり、若者の皆さんのダンスの披露を見ました。そして今まで10人で練習してきた桃太郎のパープサート、福笑い、あっち向いてホイを披露しました。練習してきた成果を十分に発揮して、フィリピンのみなさんも楽しそうにしていたので、本当に嬉しかったです。



そして、先ほど披露してくれたフィリピンのダンスを教してもらいました。日本の文化を紹介するだけでなく、フィリピンの文化も体験することができて、とても良かったです。



次に向かったのはモール・オブ・アジアというショッピングセンターです。

とにかく大きい！本当にびっくりしました。そこで私たちは、お土産を買ったりしました。ペソのお金を払ったり、英語で注文したりするのはとても大変でしたが、とても良い経験になったと思います。



また買い物が終わって外に出ると、ブラスバンドが踊りながら演奏をされていてフィリピンにもブラスバンドがあることに驚きました。

バスに戻って、私たち10人で「世界にひとつだけの花」を感謝の気持ちをこめて歌いました。私のペアのアリエルはその曲が大好きでインターネットで歌詞を調べながら一緒に歌ってくれました。ここでも日本の歌を好きになってくれたことにとても感動しました。そしてフィリピンのみなさんから歌のプレゼントがあり、とても嬉しかったです。

ホテルに着きお別れの時がきました。10人はペアの元に行き感謝の気持ちを伝えていました。最初は不安もありましたが、良い経験ができて、とても充実した一日でした。



## 第4日目 8月2日（日）

山田 采果

4日目は、マニラ市内を観光しました。まず、ラスピーニャス教会に行きました。中は天井に竹のパイプオルガンがあり、とても魅力的でした。少しするとお祈りが始まりました。教会の中に入りきれないため、外でしている人もいました。実際にこのような光景を見たのは初めてで、教会の中は外と全く違う空気でした。



教会の外では、ドリアンやはちみつが売られていました。そこで砂糖がコーティングされている梅干をもらいました。食べてみると最初は甘くて美味しいと思いましたが、味わって食べていると、とてもすっぱくて顔がゆがみました。

その次はジブニーと呼ばれるフィリピンの車の工場を見学しました。街を走っている派手なジブニーがたくさんあり、昔の古い形のものも展示されていました。みんなで好きな車の運転席に座って、写真を撮ったりしました。

お腹をすかせた私たちは、昼食場所へと向かいました。フィリピンで食べる最後のお昼は、肉料理、スープ、焼きそばのようなもの、そして食後にはマンゴー、りんご、オレンジの盛り合わせが出てきました。



テラスで食べていたので、時々ハエが寄って来る時がありましたが、そのたびに店員さんが手ではらってくれました。こういうことも、フィリピンならではの思い出でした。

お腹がいっぱいになったところで、これまでの疲れが出たのか、バスの中で全員ぐっすり眠っていました。目が覚めると、スラム街に入る直前でした。スラム街に入ると、家が家ではないように見えました。木の板を組み合わせ、屋根をつけただけの簡素な作りでした。行く前は、そこらじゅうにゴミの山ができていて、そこに人がたくさん集まっているというイメージでした。ですが、ゴミの山は無く、子どもたちがたくさんいました。手をふってもいいのかわからず見ていたら、子ども達の方からこちらに手をふってくれました。ローラースケートで遊んでいる子がいたり、走り回っている子がたくさんいて、日本の子どもと同じように、とても元気に遊んでいるように見えました。



ホテルで過ごす最後の夜は、午前中にフルーツスタンドで買ったたくさんのフルーツでパーティーをしました。みんなでフルーツの皮をむいて準備をして、まずドラゴンフルーツから食べてみましたが、奇抜な見た目と違って、無味無臭でした。マンゴーは、私の苦手な果物でしたが、美味しくてフィリピン最終日に克服することができました。楽しく夜を過ごし、あとは日本に帰るのみになりました。フィリピンで過ごした4日間は、慣れない環境で疲れましたが、とても充実した研修になりました。

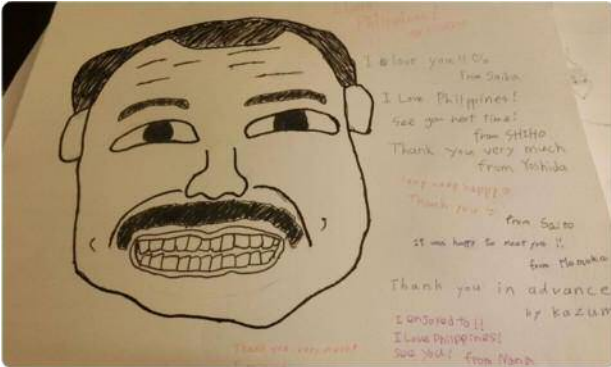


## 最終日 8月3日（月）

菅野 しおり

8月3日、とうとう最終日です。朝は5時起床、出発が6時と早かったので、皆眠そうな顔をしていましたが、ロビーで受け取ったサンドイッチとリンゴを食べ始めると元気になりました。まだ帰りたくない人がほとんどでした。

空港へ向かうバスの中で、5日間とてもお世話になったガイドのバージさんと運転手さんに、それぞれの似顔絵を描いた寄せ書きを贈り、空港でお別れしました。滞在中ずっと一緒にいたので、別れるのは寂しく、皆名残り惜しそうに手を振っていました。



荷物を預けた後、1時間程の自由時間があり、ペソを使っての最後の買い物を楽しみました。

買い物も終わり搭乗までの間、改めてこの5日間のことを思い返してみると、まず頭に浮かんできたのは、フィリピンの人々のフレンドリーさでした。特に、複雑な思いで向かったスラム街でも、皆明るい笑顔で手を振ってくれて、なんだかほっとしました。

そしていよいよ飛行機に乗り込み、フィリピンにさよならです。離陸してしばらくすると機内食が出されました。



しかし、私は食べようとするとう腹痛に襲われ、さらには嘔吐、下痢と、思いきり体調を崩してしまいました。添乗員の布施さんがいろいろとお世話してくださり、大変ご迷惑をおかけしました。成田空港に着くと念のためということで検疫所に連れて行かれました。結果、特に問題はなかったのですが、海外から帰って来た時に病気になると、こんなに大変なことになるのだなと勉強になりました。



国内線に乗り換えるまでに少し時間があつたので、ここで腹ごしらえです。やはり日本食が恋しかったのか、お茶漬やおそばを食べた人もいたようです。搭乗を待っていると、テレビで苦小牧でフェリー炎上したニュースが流れていて驚きました。搭乗のアナウンスがあり、最後の飛行機に乗り込みました。

空港からバスに乗り、市役所に到着すると加賀谷さんや梶田さん、家族が出迎えてくれて無事に帰ったことを実感し安心しました。

このフィリピン研修は、事前研修を含めとても有意義で得難い体験でした。この経験を今後にかしたいと思います。





# セントフランシス聾学校での思い出

藤村 一馬

7月31日、金曜日にセントフランシス聾学校に行ってきました。出むかえてくれたのは聾学校の生徒さん達でホールのような場所に入ると自分達の名前が英語で書かれている紙にWELCOMEという文字が記されていてわざわざ作ってくれたので心からありがたく思いました。



出むかえが終わった後には自己紹介をそれぞれ一人ずつ英語で発表をしました。すごくきんちょうしました。その後に生徒さん達とようかいウォッチと英語のダンスを2つおどりました。

次は研修で1番かんばって来た聾学校の生徒さん達とやる遊びです。成功するかどうかときどきしていました。ぼくの担当はとんとんずもうで3才~6才の子達とやりました。



生徒さん達は耳が不自由なので英語で説明することは苦労しましたがみんながルールを覚えたところで実際にやらせてみると折り紙で作ったカシを見せるだけで大喜びしていました。みんなが楽しそうに遊んでいたのでもぼくにとっては大成功だったと思い、とても楽しかったです。

そしてお別れの時がきました。生徒さん達からのプレゼントは本の中にはさめるしおりをもらいました。

ぼく達からのプレゼントは学校でたくさんの人から集めたノートとビーズです。一人一人にあげて喜ばれていたのでもうれしかったです。また生徒さん達とおどったり遊びたいなと思いました。





# フィリピンの南国フルーツ

木戸 花音

私は、南国のフィリピンでのフルーツについて、紹介します。

フィリピンといえば、やはりバナナですよね。行く前から、とても楽しみにしていました。



南国フルーツは、酸味の少ないフルーツが多いイメージがありました。私のお気に入りのフルーツをいくつか紹介します。



1つ目は、やはりマンゴーですよね！優しい甘さが特徴で、たくさんの人に親しまれています。

2つ目は、バナナです！

スーパーで見るバナナの産地は、ほとんどフィリピンですよね。私は10個程購入しましたが、ほぼ1人で食べてしまいました。



3つ目は、フルーツの王様ドリアン様です。とてもおいしいと評判なのですが、においにやられたので、写真さつえいだけしました。

4つ目は、ドラゴンフルーツです。赤くて、トゲトゲしたハデなフルーツです。しかし、味はかきりなく「無」。おしょう油つけて食べたかったです(泣)



ここからは、現地に行かないと出会えないフルーツを2つ、ご紹介します。

まずは、マンゴスチン様。この方は、フルーツ界の女王様だそう。



甘さと酸味がちょうどよくて、個人的には一番好きです。

ただ、食べる時には種に気をつけて

くださいね。まあ、害はないと思います。(実体験済み)

最後は、ジャックフルーツです。実際には、食べませんでした。色々な場所で見かけました。

このフルーツは、「世界最大の果物」といわれていて、体長1mにもなるそうです。



私は、この研修をとおして、大切な事を学びました。それは「何事にも挑戦する」ということです。

この研修に参加し、自分の考え方や価値観が変わりました。

本当に良い経験になりました。

ただ、1つだけ、心残りが...

ドリアン様、食べればよかった(泣)





# フィリピンで印象に残ったこと

吉田 海慈

## スーパーマーケット

フィリピンの大学生と一緒にモールオブアジアというスーパーに行きました。そこはアジアで一番大きいのですが最初見た時は2階しかなく、「小さいのでは？」と思ったのですがビル程の横に長く、これ1日あっても全部行けないのではと思う位でした。



まず、行ったのが食べ物がたくさんある場所に行って大好きなドライマンゴーを買いました。

そして部のおみやげにボルボロンを買いました。

すると、そこに一馬君がいたので一緒に行きました。

次に一馬君の妹のおみやげを買うためにおもち屋

ストに行きました。僕はそこでスポンジボブの人形とアクレカリーを買いました。妹のおみやげにするためです。

そして、ゲームセンターに行きました。でも、高かったので遊園地も行ってフリーフォールをしました。楽しかったです。



## 食事

フィリピンのご飯は日本と比べると味が濃いと思います。あとご飯がチャーハンよりパサパサでした。そしてモチモチしています。でも鳥肉がとてもおいしかったです。あとマンゴーがおいしかったです。僕はマンゴーが大好きなのですが日本ではあんまり食べる機会がなかったのでフィリピン

に行って色々食べようと思っていたので食べている時は幸せでした。

フィリピンに行って食事関連でびっくりしたのがコーラがシップのような味がしたことがびっくりしました。別にシップを食べた事がある訳じゃないですがびっくりしました。

後から聞いた話ですが昔コカコーラネオが作ったコーラがそんな味がすると聞きました。それはコカコーラネオが作っていたので不思議に思いました。



## ホテルでの事

ホテルでの朝食は1日目と3日目、2日目と4日目と同じでした。1日目はフィリピンについてから初めてご飯を食べたので色々試してみました(バイキングでした)

味が濃かったりしたので2日目以降はいつもパンケーキを食べていました。

自由自慢は木見お投げをしたり大富豪をしたりしました。一番おもしろかったのは

大富豪で、ほとんどイ業が一番でしたがたまに負けました。基本的に京都寝

時間は夜中でそれまでは遊んでいました。ホテルにいてびっくりしたのが

シャワーを浴びようと思ってお湯を出そうとしても水が出た事です。

あとお湯をためるのに使う栓がなかった事がびっくりしました。

でも段々慣れていったのでそんなに気にしなくなりました。





# 私がフィリピンで目にしたもの

田中 詩帆

## 1 家族のために働く子どもたち

平日の昼間だ”というのに、帽子やお菓子を売り歩く子どもたち。自分たちの生活を成り立たせるために、お金を稼いでいるのだ。学校に行けず、満足にやりたいことが

できない。私たち日本の中学生にとってあたり前のことが成り立っていない状況に驚きを隠せなかった。



## 2 手を差しのべていききた小さな男の子

私に手を差しのべてきた小さな男の子がいました。その時「かわいそう…ごめんね…」と思うことしかできませんでした。

今考えると、あの時お金を渡していたらあの男の子の人生が変わったのかもしれない、と思うことがあります。

しかし、その子にとってお金をもらうことがあたり前になってしまえばいけない。そう考えると世界には問題山積み。そして、その問題に私も直面したのだ”と思った。だからこそ、考え、この目で見た事を伝えていこうと思う。



## 3 ごみを拾って生活する人々

家庭から出るごみの中から、リサイクルできるペットボトルや缶などを拾い、お金にすることで生活をしている人もいます。私も大きなタンカーを引いた男の子がごみを捨てているのを見た。

そのようにしなければ生活が成り立たない”という事は学んだ。しかし、自らあたりになると、それが”今世界で起きている”と認めることが怖くなりました。自分には想像すらできなかったことが、目の前で起きている。別の方法でやりがいを持つて生活できるようにしたい。と思った。



## 4 考えたこと

家庭などから出るごみの中に、リサイクルできるものが多く含まれている。それが、ごみを捨てお金にするしかない理由の一つではないか。生活が成り立つための仕事についてほしい。という私の原動力。だからこそごみの分別を行い、ごみの処理施設を充実させることでリサイクルが効率良く行われると思う。そうすることで、働く場所が増えて、自然を汚さない社会にもやっかいなサイクルが”できる”と考えた。これが実現すれば、フィリピンの土壌なる発展につながると思う。



## 5 最後に

私はフィリピンに行って初めて自分もいる環境がどれほど恵まれているかを知った。だからこそ、この研修で考えたことが気付いたことをこれからも考え続け、より沢山の人の目にしたこと知った事を伝えていかなければならないと思う。



# 研究報告 第Aグループ

菅野しおり・小林舞凜  
土谷奈々・藤村一馬・山田采果

発表テーマ

## 秘密のフィリピンSHOW



### セントフランシス聾学校での交流

セントフランシス聾学校の生徒たちとの交流では、**Welcome**と書かれたものが飾ってあり、ダンスで迎えてくれた。その後、私たちも一緒にダンスをした。踊り終えると、とても仲良くなれた気がした。

よいかい体操 踊、たよ!!

**ノートもプレゼント** とんとんずもう(低学年)

1列に並んでもらい、1人に1冊ずつノートをプレゼントしました。直接手で渡したの で、喜びがとでも伝わって きました。

ルール説明には苦戦しましたが、カセを見せるだけで喜んでくれました。実際にやってみるとみんなが、嬉しそうにやっていたのでうれしかったです。

**様々な交流**

**ジェスチャーゲーム(中学年)**

動物やスポーツのジェスチャーゲームをしました。みんな全身を使って表現して 答えがわかったときや、その答えが正解だったときはとても嬉しそ うになりました。

**書道(高学年)**

漢字1字を1人ずつ書いてもらいました。英語での説明、ちゃんと 伝わったかな? Sumi is indian ink!! Fude is brush!!

### Manilaの様子

**電線** おどろき  
いくつもの電線がだらしな来に っっている。

**感じたこと**  
街がだらしなく 見えてしまう。

**こうするべき**  
日本などが ボランティアで 直すべき!!

**町のゴミについて**  
いたる所に ゴミが...!!

町の道はたにゴミがたくさん捨ててあった。あきカンやジロビのからのパツが捨ててありゴミを 少しでも減らしたらもど町がきれいになって良いと思う。

ゴミ箱を設置したら少しは減るんじゃないかな? 皆でゴミみをした5日とおもな~

こんな所にも ゴミ!! ゴミ!!! ゴミ!!!!

**クラクション**  
クラクションがあちこちでひんぱんに鳴っていて、夜ホテルにいても聞こえてきました。車同士はもちろん、渋滞になると車の間を歩く 人たちに対しても鳴らしているようでした。

パイパフ!!!

### フィリピンの〇〇

フィリピンの食べ物	日本の食べ物
・明るい色が少ない	・明るい色が多い
・肉が多い	・肉なども多いが魚も多い
・おいしい物もあれば、	・食べ物は何でも
すぐく口に合わない物もある	口に合う

**自然**  
歩道にはヤシの木が普通に生えていた。見たことのない植物ばかり...

**長時間労働!?**  
フィリピンに着いた日の夜、バスでホテルに向かってみると上半身はだかで土木作業をしている人がいた。10代~20代の男の人たち

**フィリピンの生き物**  
のら猫やのら犬が町のあちこちにたくさんいた! 日本では普通にありえないおとりがいてビックリした!



# 研究報告 第Bグループ

木戸花音・國坂萌々香  
齊藤有里杏・田中詩帆・吉田海慈

発表テーマ

## Weは何しにフィリピンへ？



## 1. フィリピンで 貧富の格差

### ① フィリピンの様子

#### <貧富の格差>

高層ビルが立ちならぶ都市部とスラム街との格差が大きい。



なぜなら

1) 都市部はさらなる発展のため高層ビルが次山建てられる。国の発展を考えると、スラム街などの整備などは優先順位が低い

#### <交通面の安全>

- 1) 道の整備が十分でない
- 2) 車間距離や対向車線との距離が狭い
- 3) 車が走っている中、歩行者が普通に車道を歩いている
- 4) 交通渋滞が毎日起こる

2) JICAなどがスラム街や開発途上地域への支援にあっているが、今はまだ、成果があまり表れていない。

### ② スラム街の現状

#### <スラム街の様子>

家はあるものの、とても建物とは思えないものだった。靴ははいていない人も多かった。地面が平たい訳でもなく、ゴミも沢山落ちていた。



#### <子供たちの様子>

市街を歩いているとまれに、ぼろぼろの服を着た子供たちが無言で手を差し伸べてきます。日本で「おわりえび」の時は「おわりえび」と思っていたかまがませんでした。

## 2. ジャイカ(JICA)の活動

1) ドリームプラン  
道路の整備を行い、使いやすくすることで、フィリピンの経済を良くしよう！というもの。  
**現状** フィリピンは、ジプシーやバスなどが沢山開通されたが、大気汚染、人口の増加により有効的に利用できない。

ドリームプランによって道路整備ネットワークの拡張、バス、ジプシーの改良を行うことで、人々の安全を守り、災害による被害を最小限にしようというもの。このプランが実現されると、7日1億円、日本円で10億円の節約になる。

#### 2) 草の根技術協力事業

子どもたちが本来守られるべき権利を自分たちが生きがいややりがいを感じられるようにするために活動する。この活動はフィリピン全土で行われており、日本からも多数企業や団体が事業に協力している。



ごみを拾って生活している人の現状を手のあたりにした。このような現状をみて、沢山のことを考える。1つ目は、ごみを拾って生活している人に、JICAの活動のよき生きがいを持ちやりがいのある環境を整えること。

2つ目は、家庭などから出るゴミの中にリサイクルできる物が多く含まれている。そのためゴミの分別を行い、ゴミの処理施設を充実させる事でリサイクルが効率よく行われると思う。このようなリサイクルがフィリピンのさらなる発展につながると思う。

あとがき  
・ 今回の研修で目にしたフィリピンの現状。改めて私たちの生活が恵まれているのが気付きました。私たちは見てきた責任を持ち経験したことを伝えたいです。



# 旅の思い出



**結団式**

**出発式**



**事前研修(全9回)**







# 1日目



# 2日目







3 日 目



4 日 目







# 5日目



# 報告会

平成27年度苫小牧市こども国際交流事業  
中学生フィリピン派遣団報告書

平成27年12月発行

総合政策部 政策推進室 市民自治推進課

〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号

TEL 0144-32-6157 (直通)

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/siminjiti/>